

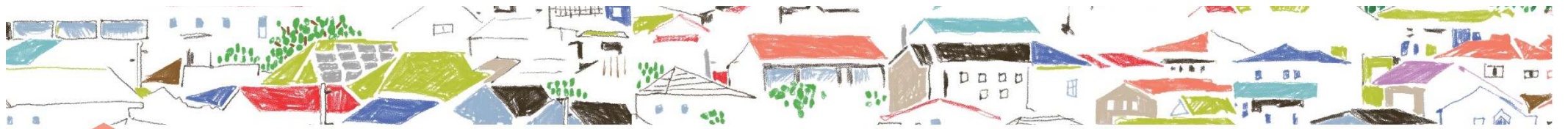
記憶の中の住まい



明日へと続くはずであった海辺の暮らしを再現

記憶の中の 住まい

東日本大震災から時が過ぎ、以前のまち並み、自然、暮らし、そして紡いできた歴史などの痕跡を探ることが難しいくらい変わってしまった地域。震災前までそこにあった暮らしを伝える記憶の記録。



目次

はじめに	1	地域紹介：仙台市宮城野区蒲生	54
プロジェクトの経緯	2	14. 棟梁の叔父が 手がけた家	55
掲載事項について	3	15. 黄色いバラと 家庭文庫の思い出	59
		〔写真資料〕 仙台市宮城野区蒲生・小田切	67
地域紹介：気仙沼市本吉地区	4	地域紹介：仙台市宮城野区小田切	68
1. 完成を楽しみに航海へ、波の音が聞こえる家	5	16. 明治時代に建てた 網元の家	69
〔写真資料〕 気仙沼市	7		
地域紹介：石巻市湊地区	8	地域紹介：仙台市若林区荒浜	76
2. 柑橘系の木で 蝶々の成長も見守った家	9	17. 夏のバルコニーは ピアガーデン	77
〔写真資料〕 石巻市	11	18. きらきらジャンデリアの 和室がある家	81
地域紹介：東松島市大曲地区	12	19. 築100年の茅葺の家を 解体して新築した家	85
3. 目の前の絶景に育まれた 浜の家	13	20. 父が設計、池と様々な植物があった家	87
4. 外国土産に囲まれた 漁師の家	16	21. 海で遊び、趣味を楽しんだ三世代の家	89
5. 先祖は関西から来た商人と伝わる家	19	〔写真資料〕 仙台市若林区荒浜	92
そして生家で体験したチリ津波	19	22. 商店を営みながら趣味の写真を楽しんだ家	93
6. 三世代で暮らし、商店を営んだ家	26	そして小学生頃の思い出の家	93
7. 大工になった弟が 最初に手がけた家	29	地域紹介：名取市閼上	98
8. 庭、骨董、着物、美しい物を楽しんだ家	32	23. 働き者の両親と 二世帯の家	99
9. 果実と花木の庭と趣味を 楽しんだ家	35	〔写真資料〕 名取市閼上	103
〔写真資料〕 東松島市大曲	38	地域紹介：亶理郡山元町	104
10. お茶っこ飲みへは 出窓から、三世代の家	39	24. 江戸時代の風情を残す 農家住宅	105
11. 大家族ならではの 楽しい家	41	25. 自ら設計した 最小限実験住宅	109
12. 世代をつなぐ二世帯・四世代の家	43	〔写真資料〕 亶理郡山元町	112
地域紹介：東松島市野蒜地区	46	26. 仲よし家族を見守った 居久根の家	113
13. 歴史を受け継ぎ 家族の思いが詰まった家	47	プロジェクト参加者／編集後のひとこと	118
〔写真資料〕 東松島市野蒜	53	おわりに	119



はじめに

「記憶の中の住まいプロジェクト（略：キオスマPrj）」が始まったのは、震災から2年が過ぎてからでした。東京を中心に活動している「女技会」から、「失った住まいの思い出を間取り図に再現し、被災された方にお渡ししたい。」との協力依頼が、私たち宮建女にありました。

女技会では震災一年半後に被災地を訪れ、その状況に心を痛めていました。そして「お話を伺って間取り図を作成し『アルバム』としてお渡しする」という「キオスマプロジェクト」を立ち上げました。そこに宮建女が参加し、その後は宮建女が全面的に引き継ぐ形で取り組んできました。

未曾有の津波被災があまりにも甚大でその傷が癒えないであろう状況に、それまでの日々の暮らしを語っていただくことに私たちは躊躇がありました。そんな思いを抱きながら、家族の暮らしのみならず地域の思い出や歴史などにも及ぶお話を伺っていると、その貴重さに気付かされました。これまで気仙沼、石巻、東松島、仙台、名取、亘理、山元など県内沿岸に暮らしていた方々に聞き取りをし、「アルバム」をお渡ししました。

東日本大震災から年月が過ぎ、この間、被災された方は必死に前を向こうと、それぞれの暮らしの選択を余儀なくされてきました。一方、被災跡地の多くが災害危険地域となって整備が進み、以前の町並み、自然、暮らし、そして紡いできた歴史などの痕跡を探ることが難しい位、変貌は大きくなっています。そんな中、新型コロナウイルスの影響で中断、その間も日々変わってゆく被災地の姿を目の当たりにして、今、何が出来るかを考えました。そして語って下さった記録を形に残せないか、検討を重ね、お一人お一人の暮らしの記憶を繋いで伝承に役立てられれば、との思いで冊子を発行する事になりました。続くはずの普通の暮らし、町並みが平成23年3月11日の震災までそこにあり、一つ一つの建物が町の記憶をつくってきたことを改めて想います。

プロジェクトにお申し込み頂き貴重なお話をしてくださった皆様、そしてこの度の冊子掲載に同意して下さった方々に心より御礼を申し上げます。

また、プロジェクト実施に際してご協力頂いた方々、ヒアリングや制作に参加して下さいの皆様、女性部会員の皆様に心より感謝を申し上げます。そして冊子作成にあたり、写真や資料を提供して下さった女性建築技術者の会様、ご協力誠に有り難うございました。

令和5年12月

「記憶の中の住まいプロジェクト」編集委員会 西條 由紀子

■(一般社団法人)宮城県建築士会は「建築士法」による建築士を会員とする団体で、建築技術者として様々な研鑽や活動をしています。その中の一つとして建築士会女性部会(略：宮建女)では、2011年3月の東日本大震災に関する「記憶の中の住いプロジェクト」に取り組んできました。聞き取りや制作への参加は宮建女会員以外の個人、団体など多くの方のご協力を頂き実施してきました。

■女性建築技術者の会(略：女技会)は、1976年、東京在住者を中心に建築関係に携わる女性の集まりとして発足しました。仕事を続けるためのより良い環境づくりと自己研鑽のために、語り合い、学び合い、行動し合う仲間たちです。生活者の視点で自由な立場と発想で幅広く活動することが会の基本です。



プロジェクトの経緯(概略)

2011年3月11日午後2時46分 東日本大震災発生(震源地:三陸沖、最大震度:7、マグニチュード:9)

2012年10月 女性建築技術者の会(略:女技会)は、宮城合宿(10名参加)で仙台～石巻を視察。「アルバムの家」[三省堂]を出版(2006年)した経験から「震災で家を失った人達の家の間取りを再現し、これまでの暮らしを聞き取り、アルバムにしてお渡しする」という「記憶の中の住まいプロジェクト」(略:キオスマprj.)を立ち上げる。

2013年10月 東松島市復興事業に携わっていた「NPO都市住宅とまちづくり研究会」の案内で、東松島市矢本運動公園野球場応急仮設住宅と小野駅前応急仮設住宅を女技会が訪問し、プロジェクトを紹介。宮城県建築士会女性部会(略:宮建女)有志が同行。

2014年3月 東松島市で被災者の方に第1回ヒアリングを女技会が実施。宮建女有志が参加。

6月 女技会と宮建女が東京で正式に対面し、女技会から宮建女にプロジェクトへの協力を依頼し、宮建女が受ける。

7月 仙台市荒浜で女技会と宮建女合同でヒアリング実施。

2015年4月 東松島市で女技会と宮建女合同でヒアリング実施。

8月 東松島市で成果品の贈呈式実施。以降、宮建女が全面的に引き継ぎ取り組んできた。(2014年～2019年、沿岸部37軒実施)

2020年4月 新型コロナウイルス予防のため中断。

2021年4月 中断が長引き、何が出来るかを模索、冊子作りに取り組み始める。

2023年7月～8月 クラウドファンディングにて制作費の支援を募る。

「記憶の中の住まい」をあなたも再現してみませんか？

昨日、今日、そして明日へと続くはずであった暮らし。どの家にもその人らしい暮らしが営まれていました。あれから2年半余りが経ち、その間のご苦労は驚くことに余りありません。かつての暮らしを思い、空しく胸に秘めてはいませんか？

何か次の一歩のために私達建築技術者がお手伝いできることとして、暮らしを支えてくれた住まいの間取り図として再現することを考えました。思い出と一緒に間取り図を起しながら、本来の暮らしを記憶の中から取り戻し、間取り図をアルバムの1ページにしたいかがでしょうか。集約情報による詳細先の住まいの設計にも大いに役立つものと思われれます。間取りはもう覚えても大丈夫です。私達がお手伝い致します。住まいの形態は戸建て、アパート等を問いません。「やってみたい!」と思って下さった方は、お声を掛けて下さい。

ご希望の方は、下記、としまち研まで、ご連絡ください。

連絡先 NPO 都市住宅とまちづくり研究会 (連絡) としまち研 | 宮城県仙台市青葉区南1-1-1 | 電話番号 0225-98-5291 | 代表者 西條 由紀子

「記憶の中の住まいprj.」ご案内チラシ

制作・デザイン: 女性建築技術者の会